

小学生の学校生活満足度と運動に関する一考察

岩口 佳南子 (大阪教育大学)

1. 目的

本研究では、運動・体育の好感度や運動有能感を含む体育・運動意識や運動習慣と、学校生活満足度またはライフスキルを比較し、関連の有無を調べることで、今後の教師が子どもたちの学校生活の充実のために、運動や体育の視点から考えることができるための一助となることを目的とした。

2. 方法

- 1) 対象者：大阪府下3校の小学校5,6年生499名 (男子250名,女子249名)
- 2) 調査方法：①学校生活満足度②ライフスキル③運動・体育意識④運動習慣の4つの尺度から、全24項目の質問紙調査を実施。

3. 結果

- 1) 運動・体育意識と学校生活満足度の関係性
運動好き、体育好き、運動得意と答えた児童の方が、そうでない児童よりも、有意に学校生活満足度における肯定感が高かった。なかでも、「友達を大切だと思っていますか」などの交友関係に関する項目や、「クラスを大切だと思っていますか」などの学級の愛着に関する項目において、有意差が認められた。
- 2) 学校生活満足度とライフスキルの関係性
運動好き、体育好き、運動得意と答えた児童の方が、そうでない児童よりも、「歯磨き」「あいさつ」の2項目において有意に高く、スキルの習得がされていることが分かった。
- 3) 運動習慣と学校生活満足度の関係性
運動系習い事に通う頻度の高い高頻度群は、中頻度群、低頻度群に比べ「好きな先生がいますか」「友達に満足していますか」「クラスを大切だと思っていますか」の3項目において有意に肯定感が高かったが、「勉強は大切だと思いませんか」の項目に対しては否定的であった。また、1週間の総外遊び時間と学校生活満足度を比較すると、少運動量群よりも多運動量群、中運動量群の方が学校生活満足度の3項

目において有意に肯定感が高かった。しかし、運動量は一程度を超えると大きく関係しなかった(図1)。

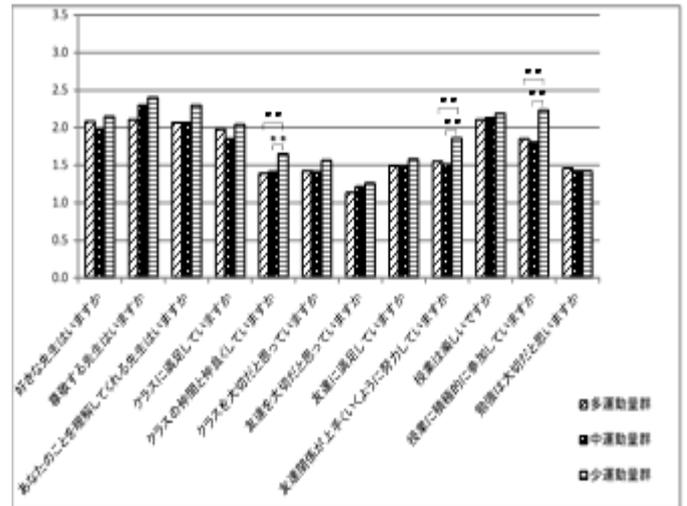


図1 運動習慣と学校生活満足度の比較 (*:p<0.05, **:p<0.01)

4) 運動習慣とライフスキルの関係性

運動系習い事をしている児童と外遊びを一程度以上する児童では、そうでない児童よりも、「あいさつ」の項目で有意に高く、あいさつスキルの習得がされていることが分かった。

4. まとめ

外遊びを含め運動は他者とともに行う場合が多いため、コミュニケーション能力などの社会スキルが向上し、結果として、交友関係が広がったり、自己肯定感が高まったりすることなどが学校生活満足度を高めることに繋がったと考えられる。また、あいさつもコミュニケーションの1つと捉えることができることから、運動に肯定的であり、運動習慣がある児童はあいさつができる児童が多いと考えられる。これらの結果から、学校全体として児童の学校生活の充実や生活スキル向上のため、児童たちがやってみたいと思うような遊びや、達成感を感じるができる運動を体育に取り入れたり、休み時間に教師が率先して児童とともに遊んだりするなど、積極的に運動に親しむ時間をつくることで、児童の運動に対する好感度や意欲向上に努めることが大切である。